



# 根堀台だより

平成29年11月24日

第76号

校訓「進歩(文)」「健康(武)」「協力(道)」

## 剣道を学ぶ 由利中学校剣道体験教室



指導者の〇〇先生と〇〇先生



真剣な眼差しで竹刀を振る



ペアで見事なリズム剣道を

11月20日(月)の2・3校時、秋田県剣道連盟のご協力の下、〇〇〇〇先生・〇〇〇〇先生のお二人を講師にお迎えし「由利中学校剣道体験教室」を開催しました。当日は〇〇〇〇会長様はじめ秋田県剣道連盟の皆様もご来校下さいました。

本校ではこれまで体育の武道は「柔道」を行ってきましたが、この体験教室を通して他種目の武道を体験することができました。本校には剣道の用具がありませんが、剣道連盟から当たっても痛くない「簡易竹刀」をお借りしての実施となりました。最初に、礼法と基本動作や面・小手・胴の打ち方と受け方について習いました。この日は朝からの冷え込みが厳しく、体育館の床も冷たかったのですが、子どもたちは全員裸足で元気に竹刀を振っていました。

この体験教室のねらいのひとつは、例え用具が無くても剣道の楽しさを体感できることです。4拍子の音楽に合わせて、すり足をしながら笑顔で竹刀を振る姿が見られました。

子どもたちの中には小学校時代にスポ少で経験していた人もいて大変上手でしたが、未経験者でもすぐにコツを覚え、ペアで楽しそうに剣道に取り組んでいました。指導に当たったお2人の先生も「こんな短時間で、ここまでできるとは思わなかった。由利中の子どもたちは素晴らしい。」とお褒めの言葉を頂きました。

最後に全員正座をして挨拶をして体験教室は終了しましたが、武道で一番大切なことはやはり「礼に始まり、礼に終わる」ということです。〇〇先生から礼は心を豊かにすること、そして礼を形として身に付けることは「ゆとりと誇り」につながるというお話がありました。

1・2年生の頑張りを見て、この体験教室は体だけでなく、心の成長にもつながったと感ずることができました。大変立派な剣道体験教室でした。

# 十字路

ボイス Voice

由利中3年⑥  
(由利本荘市)

さきがけ新聞に掲載されている3年生の投稿が、11月22日(水)から論調が変わりました。前の5名の生徒は「成人年齢引き下げ」に対して、「時期尚早」という意見でしたが、今度は「容認」するという意見が紹介されています。

大人としての自覚や責任感を身に付けるためにも政治参加することに意義があるということ、諸外国の実際の取組を通して経験こそが成長につながるという考え方がしっかりと述べられています。

18歳から選挙権をもつことで日本の有権者数は現行より240万人も増えることも増えます。その根柢は「若者の政治参加を促す」という意識を高め、若者の政治参加を促すというねらいがあります。

## 責任感のある若者育成のために

三浦 桜和

今の若者は社会への関心がなくなってきたような気がする。これでもいいのだろうか。人の定義が変わることに気がする。

今夏、上川陽子法相は、成人年齢を18歳に引き下げる「民法改正案」を早期に成立させる方針を示した。もし実現すれば1876年に「太政

官布告」で満20歳とした成人年齢を18歳に引き下げる行動しなければならぬと自覚するために法案の実現に賛成する。具体的な理由は二つある。一つは、2015年の公職選挙法改正による選挙権年齢の引き下げだ。国が行く末を左右する選挙。それに参加する権利を18歳以上は持っている。しかし、現在の民法をみると、判断能力が未熟な20歳未満の人を保護することある。矛盾だ。国の在り方をこれまで判断能力が未熟としてきた人に決めさせるのか。この矛盾を解消するためには、成人年齢を18歳に引き下げるのが妥当だろう。

もう一つは婚姻年齢だ。男女ともに18歳以上は親の同意なしに結婚できる。自立して新しい家庭を築くには責任を持たなければいけないと思う。若い頃から責任感のある人間に成長する機会を得ることになる。ローンやクレジット、トカードの契約も同じだろう。

一方、飲酒や喫煙、騎馬などの公営ギャンブルに関しては20歳未満禁止が維持されるようだ。これらを早めることでのメリットがあるとは思えない。現行の規定のままがいいと思う。

## 自覚と責任感ある大人に

阿部 未来

ボイス Voice

由利中3年⑦  
(由利本荘市)

私は、成人年齢の引き下げに賛成だ。国民の意見は賛否両論ある。「日本の将来を担う自覚を持たせられる」「自立を促せる」「挑戦、可能性が広がる」というのが賛成意見のようだ。一方の反対意見は「知識、経験不足」「選挙権年齢

これが大きなメリットですが、逆にどうやって支持政党を決めるのか、その際メールやLINE、ツイッターなどのSNSを使用することで、公職選挙法に抵触する危険も高いという様々なデメリットもあげられます。

さらにローンやクレジット、ギャンブル、酒たばこの問題もあり、「若者の未熟さ」を危惧する声も多いのが現状です。

しかし、大人は誰もがかつて「未熟な若者」であったことを思い出してみれば、チャレンジすることの意義は大きいと言えます。何よりも3年生が強い気持ちをもって、「自覚と責任感」を培っていきたいという想いがあることを頼もしく思います。

3年生が「成人年齢の引き下げ」の是非を争うのではなく、この課題について、他から流されること無く、しっかりと自分なりの意見をもつことができて

を引き下げたものの、政治を知らない若者が多い」とのことだ。外国で成人年齢が下がったのは青年たちから、「選挙権が欲しい」「大人として認められたい」という声があったからだという。このように本人たちが自立しようとしている国と、大人が自立させようとして自立させられる国とでは、国の将来が変わってくるのではないだろうか。

他にも日本と海外の違いはある。例えば、米国では、小学校低学年の頃から物を売ったりしてお金を稼ぐ習慣があるという。しかし日本には、「働いて他人からお金をもらう」「経済面での自立心を養う」というような習慣がない。このようなことから、外国と日本では子どもが自立する年齢に差が生まれるのだろう。しかし、このままではいつまでも子どもとして見られ、自立できない若者が増えてしまっていると思う。8歳というのは高校生でもあるため、問題は多いかもしれない。しかし、次世代を支える若者が少しでも早く自覚と責任感のある大人になるには、成人年齢を18歳に引き下げる民法改正案は可決されるべきではないだろうか。

きていることに大きな成長を感じ、これから訪れる未来への期待が大きく膨らんでいきます。毎朝、由利中の3年生の意見を読むために、さきがけ新聞をめくる楽しみを感じている方々は沢山いることだと思います。明日の朝を楽しみにしています。